

7. 教員養成の質の向上に係る取組

別府大学（高等学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状・栄養教諭一種免許状）

「教職実践演習」の履修が必要となって以降、『教職履修カルテ』を独自に開発し運用している。各教職課程履修者は、これを自ら作成・管理することにより、養成段階での学修を振り返ると同時に、今後の課題を見つけ出せる。このような各履修者の学修の振り返りや今後の課題は、免許状取得に必要な科目ごとに記される。各内容は、当該科目担当教員により点検される。当該教員が必要に応じてコメントを記入することも可能である。履修者本人と当該教員の両評価により、学修の振り返りが深まったり、新しい課題が発見されたりする。こうした『教職履修カルテ』の運用により、「学び続ける教師」の輩出に努めている。

また、「実習指導（事前・事後の指導）」では、市教育委員会の指導主事や現職教員、或いは教員として活躍する本学卒業生などを講師として招き、講義・演習における学修を実際の見地から捉え直せることができるような機会を多く設けるようにしている。教員として活躍する本学卒業生は、本学同窓会が主催する「教職受験対策セミナー」でも講師を引き受けてくれている。同窓生が後進の質の向上に一役買ってくれていることは一つの特徴である。また、教育実習を終えた4年生の代表による報告を聞ける機会も設けている。教育実習を控えた3年生は、以上のような機会を通じて教育実習の心構えを築いていく。

さらに、教職課程履修者でも4年生の有志が中心となり運営されている「模擬授業の会」は、2007（平成19）年に結成され、教職課程履修者の授業実践力の向上を目指している。毎回の模擬授業の実施に向け、履修者同士で学習指導案作成に取り組んだり、授業終了後には意見交換を行ったりするなど、学生同士で授業実践力の向上を図ろうとしている。

このほか、各学科における専門教科に関する学習会や、教職課程が主催する教員採用選考試験【教職教養】受験対策講座なども開催されている。たとえば、国語科教員を目指す学生を対象とした学習会は、さまざまな国語試験問題を解き、中学・高校国語の教科専門試験に対応できる学力を身につけていくことが目的とされ、定期的で開催されている。また、史学・文化財学科の中学・高校教員を目指す学生の有志は、日本史や世界史の基礎固めを目指して主体的に学習会を開催している。さらに、国際経営学科で商業科教員を目指す学生は、週1回のペースで学習会を開催し、教員採用選考試験の過去問題に取り組んでいる。こうした学習会や講座は、教員採用の段階も見据えた取り組みである。おのずから養成段階の質の向上との連絡を意識せざるを得ない機会となっている。